

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等					第4期中期目標期間の業務実績に係る意見等				
	法人自己評価結果 (R3)	委員評価及び県評価 (R3)	委員評価に当たった意見・指摘等	R2 評価結果	R元 評価結果	H30 評価結果	法人自己評価結果	委員評価及び県評価 (中期)	委員評価に当たった意見・指摘等	
第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置										
1 診療事業及び福祉事業		小山委員 熊谷委員 郷内委員 小林委員 齋藤委員 土屋委員 橋本委員 県	●特に、高度で専門的な医療への取組、高度な療育サービスの提供について各分野ともめざましい実績を上げていると評価いたします。 ●在宅医療・療育への移行支援、救急医療の充実もなされています。 ●医療安全対策の確立、医療安全対策の充実は 困難度が高いところ、達成していると評価します。 ●小児リハビリテーションの充実も成果を出しており、評価します。					小山委員 熊谷委員 郷内委員 小林委員 齋藤委員 土屋委員 橋本委員 県	●コロナ禍における感染リスク管理を徹底しながら、高度で専門的な医療への取り組みと診療体制の維持ができています。 ●特に、高度で専門的な医療への取組、高度な療育サービスの提供について各分野ともめざましい実績を上げていると評価いたします。 ●在宅医療・療育への移行支援、救急医療の充実もなされています。 ●医療安全対策の確立、医療安全対策の充実は 困難度が高いところ、達成していると評価します。 ●小児リハビリテーションの充実も成果を出しており、評価します。	
(1) 質の高い医療・療育の提供	A	小山委員 A 熊谷委員 A 郷内委員 A 小林委員 A 齋藤委員 A 土屋委員 A 橋本委員 A 小山委員 A	●長期化しているコロナ禍においても、県民に対するサービスの維持・向上を目指し、努力されていることは評価できる。 ●小児におけるリハビリテーションは、機能回復等が将来へ大きく影響していくと考える。引き続きリハビリテーションの強化に期待する。 ●コロナ禍においても、質の高い専門的な医療・療育によく取り組んでいる。学会発表、論文発表も積極的になされており評価に値する。 ●新型コロナ診療に総合的に取り組んでいる。職員に対する通知もよくなされている。 ●新たな遺伝子治療(ゾルゲンスマ)は非常に高額であり、プロジェクトチームを発足させ慎重に取り組んだのは素晴らしいことである。 ●成人移行は支援チームで対応しているが、まだ難しい状況である。今後更なる充実を期待する。 ●増え続ける発達障害診療におけるこども病院への期待は大きい。今後よく検討してほしい。 ●紹介率・逆紹介率の数値目標に「以上」が入っています。同様に安全対策研修開催状況、感染対策研修開催状況の数値目標にもあります。分母に「以上」が入った時の計算ルールを決めておく必要があるのではないのでしょうか。 ●リハビリテーション科の学会参加、学会報告、あるいは論文はどうなっているのでしょうか。PT/OT/STには対応学会があります。小児のリハビリはこれからの分野ですから、こども病院での知見を学会に広く知らしめることは重要な課題の一つと思います。	A	A	A	A	小山委員 A 熊谷委員 A 郷内委員 A 小林委員 A 齋藤委員 A 土屋委員 A 橋本委員 A 小山委員 A	●県民が求めるこども病院への期待を受け、それに応えるべく職員の皆様の継続した努力は評価できる。特にこの3年間のコロナ禍における新たな・柔軟な対応は、評価できる。	
(2) 患者・家族の視点に立った医療・療育の提供	B	小山委員 B 熊谷委員 B 郷内委員 B 小林委員 B 齋藤委員 B 土屋委員 B 橋本委員 B 小山委員 B	●オンラインを活用した説明・相談などの対応に取り組まれている点は評価できる。 ●患者・家族への説明・相談体制づくりは、コロナ禍でもオンラインを利用したりしてなされていた。 ●セカンドオピニオン外来件数は昨年同様少ない。	B	B	B	B	小山委員 B 熊谷委員 B 郷内委員 B 小林委員 B 齋藤委員 B 土屋委員 B 橋本委員 B 小山委員 B		
(3) 患者が安心できる医療・療育の提供	A	熊谷委員 A 郷内委員 A 小林委員 A 齋藤委員 A 土屋委員 A 橋本委員 B	●医療安全・感染防止対策に取り組むためのチームや委員会活動が計画的に行われ、良い結果につながっていたと考える。 ●医療安全対策はよくなされており、インシデント3b以上は減少している。 ●一般の感染対策に加え、新型コロナ感染症に対する感染対策もしっかり行っており評価に値する。 ●「医療安全・感染対策ポケットマニュアル」は、将来的に内容を充実させて、県内の小児科医が共通に利用できるようなものにする計画はあるのでしょうか。そういう発信がこども病院からできたら素晴らしいと思います。 ●着実に実行できているが、単年度で成果が上がるものではないと思われる。	A	A	A	A	熊谷委員 A 郷内委員 A 小林委員 A 齋藤委員 A 土屋委員 A 橋本委員 A		

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等					第4期中期目標期間の業務実績に係る意見等						
	法人自己評価結果(R3)	委員評価及び県評価(R3)	委員評価に当たっての意見・指摘等			R2評価結果	R元評価結果	H30評価結果	法人自己評価結果	委員評価及び県評価(中期)	委員評価に当たっての意見・指摘等	
2 成育支援・療育支援事業	A	小山委員	A	●成育支援・療育支援事業にかかわる日ごろの実践内容を整理評価するとともに、専門職としての経験を蓄積し、技量の向上に努めている。			A	A	B	A	小山委員	A
		熊谷委員	A								熊谷委員	A
		郷内委員	A	●全般的に、目標以上の達成をされていると評価します。 ●患者と家族の心理的援助及び社会的問題等への支援について、取組を評価します。							郷内委員	A
		小林委員	A	●コロナ禍で行事・イベント・慰問等が制限される中、オンライン等を利用して種々工夫されていた。 ●心理的・社会的問題に対しても、多職種連携で取り組んでいる。							小林委員	A
		齋藤委員	A								齋藤委員	A
		土屋委員	A	●成育支援局専門職の活動状況：チーム医療の中でメディカルスタッフは明確な役割を有していると思います。 その人たちの当該学会参加、学会報告、論文作成などは、メディカルスタッフの役割を科学的に分析し、確立していくために不可欠だと思います。 リハビリテーション科と同様、積極的な活動、特に自分たちの行っていることが単なる支援を越えた科学の世界に通じるものまで高めていく努力が求められていると思います。 将来的には、積み重ねた実績により、専門職養成大学の教員として採用される道も出てきます。							土屋委員	A
		橋本委員	A								橋本委員	A
3 臨床研究事業	B	小山委員	B	●院内のみならず県及び東北地方全体の周産期・小児医療・療育水準の向上のため、臨床研究を積極的に遂行しているが、前年度を下回っている。			B	B	A	B	小山委員	B
		熊谷委員	B								熊谷委員	B
		郷内委員	B	●研究論文の件数など、評価します。 ●臨床研究の推進、治験の推進が図られた。							郷内委員	B
		小林委員	B	●臨床研究は外部とも連携し積極的に行われている。学会発表、論文発表も精力的に行われている。 ●治験は小児治験ネットワーク等を活用しよく実施されている。							小林委員	B
		齋藤委員	B								齋藤委員	B
		土屋委員	B								土屋委員	B
		橋本委員	B								橋本委員	B
4 教育研修事業	B	小山委員	B	●東北大学との連携講座はゼロである。実績を作ってほしい。			B	B	B	B	小山委員	B
		熊谷委員	B	●コロナ禍で就職している新人看護師は、実習の経験が少ない。また、臨床経験も対人関係も少ない状況で、臨床への適応に問題が生じてしまうケースが多いという声を聞くことがある。そのような新人看護師も含めて、継続して働いていける職場づくりを期待する。 ●家族支援専門看護師を育成いただいたことは、県内では1人だけであり、貴重な存在である。小児のみならず、今後幅広い活躍に期待したい。							熊谷委員	B
		郷内委員	B	●研修医の受入や専門医の育成について成果を上げている。 ●職員の資質向上の取組を評価する。 ●療育支援研修会の開催							郷内委員	B
		小林委員	B	●初期研修医、後期研修医の研修も東北大学病院等との連携をとりながら、質の高い研修となっている。 ●次世代の専門医育成も子ども病院独自の研修制度で行っている。 ●東北大学との連携講座の受け入れは、昨年同様0人であり検討が必要と思われる。							小林委員	B
		齋藤委員	B								齋藤委員	B
		土屋委員	B	●種々の資格取得は、職員のモチベーションの高揚や意識改革とどう連動させているのですか。給与面での何らかの優遇措置は取られているのでしょうか。 ●東北大学との連携講座の推進が、在籍者0にもかかわらずB評価になっています。ここはこれでいいのでしょうか。							土屋委員	B
		橋本委員	B								橋本委員	B
5 災害時等における活動	A	小山委員	A	●災害・新型コロナウイルス感染症など公衆衛生上重大な危害が発生し又は発生しようとしている場合、迅速かつ適切に対応している。			A	A	B	A	小山委員	A
		熊谷委員	A								熊谷委員	A
		郷内委員	A	●新型コロナウイルス感染症関連の取組、休日や時間外の災害発生への対応の対策などを評価する。							郷内委員	A
		小林委員	A	●新型コロナウイルス感染症対策に加え、一般的な災害時対策、消防訓練、防犯対策など継続されていた。							小林委員	A
		齋藤委員	A								齋藤委員	A
		土屋委員	A								土屋委員	A
		橋本委員	B	●顕著な成果があるとは言えない。							橋本委員	A
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置												
1 効率的な業務運営体制の確立	B	小山委員	B	●病床利用率が目標数値75%を下回っているため、目標を達成できるように頑張ってもらいたい。			B	B	B	B	小山委員	B
		熊谷委員	B	●病院運営に関する情報を職員へ提示・伝達することは、非常に重要であると思う。62の委員会を継続しているとの報告であったが、会議をスリム化し効率化していくことも視野に入れて検討していくことを期待する。							熊谷委員	B
		郷内委員	B	●職員の効率的・効果的な採用や配置に取り組んだ。 ●職員参画の業務運営の取組を評価する。							郷内委員	B
		小林委員	B	●効率的・効果的な組織の構築、業務運営体制の確立などなされていると思われる。							小林委員	B
		齋藤委員	B								齋藤委員	B
		土屋委員	B								土屋委員	B
		橋本委員	B								橋本委員	B

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等					第4期中期目標期間の業務実績に係る意見等								
	法人自己評価結果(R3)	委員評価及び県評価(R3)	委員評価に当たった意見・指摘等			R2評価結果	R元評価結果	H30評価結果	法人自己評価結果	委員評価及び県評価(中期)	委員評価に当たった意見・指摘等			
2 業務運営の見直し及び効率化による収支改善	B	小山委員	B	●経費節減のための、医療材料・医薬品等の適切な管理を行っており、必要に応じて購入・管理の方法の見直しを行っている。 ●薬品費の使用実績を実額で把握する必要があると思います。			B	B	B	B	小山委員	B	●経費節減のための、医療材料・医薬品等の適切な管理を行っており、必要に応じて購入・管理の方法の見直しを行っている。 ●薬品費の使用実績を実額で把握する必要があると思います。	
		熊谷委員	B								熊谷委員	B		
		郷内委員	B	●病床の効率的な利用については改善をみた。 ●医療機器の新規調達費用の抑制を図った。 ●収益確保の取り組みに、診療報酬制度へ対応した。							郷内委員	B	●病床の効率的な利用については改善をみた。 ●医療機器の新規調達費用の抑制を図った。 ●収益確保の取り組みに、診療報酬制度へ対応した。	
		小林委員	B	●新型コロナウイルス感染患者の入院治療を行いながら、うまくベッド調整を行い他の入院患者もできるだけ受け入れていた。病棟間の連携がうまくなされていたものと思われる。 ●超高額遺伝子治療により、材料費が高くなっている。 ●種々の見直しを行いながら経費節減に努めている。							小林委員	B		
		齋藤委員	B								齋藤委員	B		
		土屋委員	B								土屋委員	B		
		橋本委員	B								橋本委員	B		
第3 予算、収支計画及び資金計画口	B	小山委員	B	●目標とする経常収支比率と医業収支比率と全て達成している。しかし、コロナ禍ではなく、通常も達成できる体制にしてほしい。			B	B	B	B	小山委員	B	●目標とする経常収支比率と医業収支比率はおおむね達成している。	
第4 短期借入金の限度額		熊谷委員	B								熊谷委員	B		
第5 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画		郷内委員	B	●経常収支比率、医業収支比率とも前年度比で改善した。 ●大きな借入金や積立金の処分がない。							郷内委員	B	●経常収支比率、医業収支比率とも対中期計画で達成した。 ●短期借入金は無い。	
第6 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		小林委員	B								小林委員	B		
第7 剰余金の使途		齋藤委員	B								齋藤委員	B		
第8 積立金の処分に関する計画		土屋委員	B	●ゾルゲンスマは一本167百万円だそうです。新生児のマススクリーニングが始まると、年間1人は見つかる可能性があるのでしょうか？これほどではありませんが、他にもシナジスや血友病関連の高額医薬品が存在します。白血病のCAR-T療法は導入するのでしょうか。こども病院が最先端の小児医療を推進し、小児難病と向き合うためには、高額医薬材料費の問題は避けて通ることができない問題です。まずはその収支の透明性を示すことが大切だと思います。それとともに、こども病院としてこの問題にどのような考え方で臨むのかを明らかにする必要があります。と思います。							土屋委員	B		
		橋本委員	B								橋本委員	B		
第9 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置														
1 人事に関する計画	B	小山委員	B	●人材育成の点で、宮城県公務研修所主催研修を受講辞退しているが、リモート研修など参加できるように検討してほしい。			B	B	B	B	小山委員	B		
		熊谷委員	B	●適正な人員数を意識していると思われるが、2024年4月からの医師の働き方改革の本格導入を視野にいれて、タスクシフトや体制の整備など準備を進めていかれることを期待する。 ●看護師の離職率は、継続して全国平均・県平均を大きく下回っている点は、評価できる。様々な努力を重ねての結果であると推察するので、今後も継続した取組に期待する。							熊谷委員	B	●障害者雇用について、更なる具体策等の検討を期待する。	
		郷内委員	B	●医師・看護師の確保に努めた。 ●適切な人事評価の実施などにより、職員の意識改革に努めた。							郷内委員	B	●医師・看護師の確保に努めた。 ●適切な人事評価の実施などにより、職員の意識改革に努めた。	
		小林委員	B	●障害者雇用率達成は難しい状況にあるが、今年度も法定障害者雇用率を達成している。 ●人材育成のための研修等への参加は、新型コロナウイルス感染症のため辞退している。							小林委員	B		
		齋藤委員	B								齋藤委員	B		
		土屋委員	B								土屋委員	B		
		橋本委員	B								橋本委員	B		
2 職員の就労環境の整備	A	小山委員	A	●メンタルヘルス不調の早期発見と未然防止に取り組んでいる。			A	B	A	A	小山委員	A		
		熊谷委員	A								熊谷委員	A		
		郷内委員	A	●産業医による、メンタル相談の実施 ●院内保育所の運営 ●少ない看護師離職率							郷内委員	A	●産業医による、メンタル相談の実施 ●院内保育所の運営 ●少ない看護師離職率	
		小林委員	A	●職員の就労環境の整備は、健康診断、ストレスチェック、精神的ケア等なされている。 ●全職員が必要な年休を取得できている。							小林委員	A		
		齋藤委員	A								齋藤委員	A		
		土屋委員	A								土屋委員	A		
		橋本委員	A								橋本委員	A		
3 医療機器・施設整備に関する計画	B	小山委員	B	●必要な医療器械、医療情報システム及び施設設備の更新・整備を計画的に行っている。			B	B	B	B	小山委員	B	●県民のニーズ及び費用対効果を勘案しているかどうかはよくわからなかった。 ●計画より電子カルテの導入が遅れている。	
		熊谷委員	B								熊谷委員	B		
		郷内委員	B	●医療情報システムの整備・効率的活用が図られていることを評価する。 ●施設の長寿命化計画に沿って、修繕計画・改修計画を検討した。							郷内委員	B	●医療情報システムの整備・効率的活用が図られていることを評価する。 ●施設の長寿命化計画に沿って、修繕計画・改修計画を検討した。	
		小林委員	B	●医療機器・施設設備に関しても目標を達成していると思われる。							小林委員	B		
		齋藤委員	B								齋藤委員	B		
		土屋委員	B								土屋委員	B		
		橋本委員	B								橋本委員	B		